

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

＜大学＞

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 統括部局：教務機構 担当部局：教務機構 |
| 大項目 | 6 教育内容・方法・成果 (研究科) 《全学的な視点》 |
| 中項目 | 6.2 教育課程・教育内容 |
| 小項目 | 6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 |
| 要素 | 必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院) |
| 小項目 | 6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 |
| 要素 | 学主課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院) |

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況(達成度)評価 | | | | |
|---|-----------------------------------|-------------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. コースワークとリサーチワークのバランスをとり体系的なカリキュラムを編成する。 | →カリキュラムの編成を検証するための委員会の開催 | C | C | B | B | B |
| 2. 国際的な学会・研究雑誌等で研究成果を発表する優れた若手研究者を輩出するための教育システムを確立する。 | →国際的な学会での発表件数及び研究雑誌への掲載数、海外への留学生数 | C | B | B | B | B |
| 3. 文理融合型の研究科横断的な枠組みを設定する。 | →文理融合型の研究科横断的な枠組み設定を行うための委員会の開催 | C | B | B | B | B |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 目標1 | B | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度認証評価受審に備えて、他大学の受審情報等をもとに、数年前より大学院FD部会にて本学が指摘されると思われる事項について話題としてきた。各研究科ではカリキュラム検討のための委員会は設置されている。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度認証評価にて、博士課程後期課程にコースワークがない研究科がある点が指摘された。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2013年度第2回の大学院FD部会にて、本件について議題として取り上げ、コースワークの設置検討を依頼した。 | ☆ |
| | | その他 | ☆ |

| | | | |
|------------|----------|--|-------------------------------------|
| <p>目標2</p> | <p>B</p> | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院海外研究助成金制度を2010年度より開始し、大学院生が海外で開催される学会等における発表や、海外における調査研究を支援する大学としての仕組みを整備した。なお、各研究科においても独自の支援制度を有するところもある。しかしながら、助成制度に申請しない国際学会での発表件数、国際学会研究雑誌への掲載数、海外への留学生などの実態は把握はできていない。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 大学院海外研究助成金制度採用者は2010年度30名(内、学会発表は21名)、2011年度36名(同20名)、2012年度35名(同21名)、2013年度33名(同23名)と推移しているが、助成内容の検討・見直しも必要である。また、国際学会発表や国際学会研究雑誌への掲載数は、自然科学系とその他では、研究の進め方が異なるため、数の指標が適切かどうかは今後の検討課題と考える。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 予算増額も含めた大学院海外研究助成金制度の見直し。</p> <p>その他</p> | <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> |
| <p>目標3</p> | <p>B</p> | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学長室大学院課(2013年度から教務機構に業務移管)として、具体的な検討を積極的に進めることができなかった。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 文理融合型の研究科横断的な科目として、2011年度に理工学研究科と経営戦略研究科が合併科目(共通科目)「研究開発型ベンチャー創成」を開設した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 理工学研究科との横断的な科目の増設の可能性を検討する。</p> <p>その他</p> | <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> |
| <p>備考</p> | | | <p>☆</p> |